

ペリーロードからの人の流れを誘導する 魅力的な景観づくり ～弁天橋周辺まちづくり拠点～

歴史まちづくりなどを念頭に、ペリーロードの人の流れをまちなか(旧下田町内)に促すため、ハード・ソフト両面から整備を行っており、令和2年4月1日、「大工町プレイス」、「弁天橋ボードウォーク」が完成しました。景観に配慮した、歴史や文化を感じる、散策して楽しいまちづくりについてご紹介します。



伊豆石の古民家の前に整備された「大工町プレイス」

ペリーロードと大川端の間に整備された「弁天橋ボードウォーク」

事業が開始される前に地域住民を中心として 専門家も交えて話し合い、計画をしました

平成27年度に都市計画マスタープランを更新する際、東日本大震災の教訓から「人命を第一に守るための備えを行うとともに、今のまちづくりにも一層力を注ぎ、災害が起きても、住み続けたいまちとなるような都市づくりが重要になってきている」ということを基本的な考え方としました。

下田・本郷地域では「まちなかへ人を呼び込む」という視点などの意見があり、現在まで大川端マルシェの実施や、様々なワークショップを開催し、ペリーロード周辺及び大川端通りの利用方法や国道からの自動車の誘導など多方面から検討を行ってきました。

そして、この度、回遊性を高め、景観的にも憩いの場として大工町プレイス、弁天橋ボードウォークが完成しました。



市民を交えたワークショップを開催。
様々な意見を計画に反映しました

大工町プレイス

歴史まちづくりの一環で旧町名を採用しました。「大工町という場所」を可視化する目的があります。周辺の市道も同一の舗装として景観的にも一体的に整備をしています。壁面には南豆製氷所の伊豆石を使用しており、下田まち遺産の「人の暮らし」も醸し出す空間となっています。

＜施設＞

切り交ぜ模様のコンクリート舗装、ウッドデッキ、植栽(甘夏みかん)



「大工町プレイス(写真左)」とコンクリート舗装した道路(写真右)が一体的に整備され、歩行者に優しい空間となっています

弁天橋ボードウォーク

県道にかかる弁天橋から海沿いにボードウォークが広がります。公共的、生活面も考慮し船の利用にも制限がかけられないような作りになっています。また、ヤシの木やハイビスカスなどの植栽も絶妙な海と陸を結ぶ空間です。

＜施設＞

切り交ぜ模様のコンクリート舗装、ボードウォーク、植栽(ココスヤシ、フェニックスロベレニー、ストレッチア、ハイビスカス)



ボードウォーク(写真左)と植栽のあるコンクリート舗装エリア(写真右)が一体となった空間になっています

2つの計画にあたって、意識したポイント

○ペリーロードからのつながりを意識

地理的にも、人のつながり的にもペリーロードからまちなかへ誘導する雰囲気醸し出しています。

○新たなステージとして利用してほしい

住民とともに話し合い、愛着の持てる地域づくりを目指します。

○水路の一部の蓋を撤去し、水辺の空間を提供

江戸時代、下田のまちなかは水路が巡っていたといい、港町ならではの水辺の空間を提供しています。

○意味のある植栽

シンボルツリーとして植栽するとともに、目隠しとして植栽するなど、しっかりと意味をもって配置しています。

今後、未来

下田公園前にはペリーロード駐車場を整備し、観光客等の滞留時間増加、満足度向上を図ります。また、伊豆急下田駅周辺再整備、市道大川端通線周辺整備などのハード事業に加え、令和元年度から継続するソフト事業として日本大学と地元住民と協力してまち歩きルートなどを作成、交通量調査などを実施し、地域の実情に即し、なおかつ景観にも十分に配慮したまちづくりを行っていきます。

下田の人々が暮らす生活と共存するものが本来の景観であり、下田まち遺産の意義です。今後とも皆様のご意見をしっかりと配慮してまちづくりを行っていきます。